

多田雅史

件名: 全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会 (BYA)【情報 Vol.1 1 9】
添付ファイル: ①ランドセン添付文書 (第14版、2019年6月改訂) .pdf; ②患者向医薬品ガイド (ランドセン) .pdf; ③医薬品インタビューフォーム _ランドセン.pdf

各位 (本情報提供メールは当会会員、協力弁護士、協力医、報道機関、医療過誤団体、野党政党等の約300カ所へ送信しています)

全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会 (BYA) の多田雅史です。

本メールはベンゾジアゼピン (BZD) 関連情報をお送りしています。

(1)新規の情報提供希望者が身近におられた場合、**BYA-HPの「お問合せ」**をご紹介します。

<https://www.benzodiazepine-yakugai-association.com/>

(2)有用な情報をお持ちの方は本メールに返送してお知らせください。皆さんに情報提供します。

(3)情報の中で「**拡散すべき情報**」があれば、皆さんの判断で「**転送・SNS拡散**」してください。

(4)また、皆さんが支援する政党があれば、**ベンゾジアゼピン薬害の実態を政党にお伝えください。**

【目次】

1. たくさんの薬は害になる！？ ～“多剤服用”の深刻なリスク～
2. クロナゼパム (ランドセン) の製薬会社の関連文書
3. 「子宮頸がんワクチン」接種めぐり議論 山本太郎氏演説で注目、関係各所の見解は...
4. 医薬品・医療機器等安全性情報 (No.367)
5. 民事訴訟で使う書式 (松江オリジナル)

【記事】

1. たくさんの薬は害になる！？ ～“多剤服用”の深刻なリスク～

2019年10月22日(火)放送

<https://www.nhk.or.jp/gendai/articles/4343/index.html>

下図の番組HPが掲載する写真の薬剤を見ると、以下のとおり、**すべてベンゾジアゼピン又はベンゾジアゼピン様 (ベンゾジアゼピンと同じ効果) の薬物である**

商品名: 医薬品名

サイレース: フルニトラゼパム

レンドルミン: プロチゾラム

ワイパックス: ロラゼパム

マイスリー: ゾルピデム (ベンゾジアゼピン様の睡眠導入剤)

デパス: エチゾラム

リーゼ: クロチアゼパム

クローズアップ 現代

毎週 火 水 木
[東京] 午後 10:00

ご意見・情報募集中
調べて！編集長 SNSネット口コミ広告
郵便局 保険トラブル #性被害者のその後
身体拘束は本当に減らせない？

ホーム 放送予定 **これまでの放送** 番組紹介 よくある質問 みんなでプラス 特集タグ一覧

2019年10月22日(火)放送
**たくさんの薬は害になる！？
～“多剤服用”の深刻なリスク～**



無駄に「多剤併用」して大量の薬物を消費させ、「認知症」などの副作用を生んでいる。特に、ベンゾジアゼピンは「急性期の鎮静効果」しかなく、原疾患を治癒させる効果はない。したがって、長期間服用すれば「薬物依存、離脱症状、奇異反応」等の副作用しか生まない。

諸外国では「単剤処方」が原則となっており、日本だけが「多剤処方」＝「薬物の大量消費」を続けてきた。いったい、何が日本では歪んでいるのだろうか？

2. クロナゼパム（ランドセン）の製薬会社の関連文書

クロナゼパムは商品名ランドセン（大日本住友製薬）及びリボトリール（太陽ファルマ）があります。クロナゼパムは「抗てんかん薬」ですが、実態は強力なベンゾジアゼピンとして処方されており、大きな副作用被害を生じている。

今回は以下の関連文書を添付しますので服用された方、特に、「適応外処方」の場合は、自己注意が必要です。

- ①ランドセン添付文書（第14版、2019年6月改訂）.pdf
- ②患者向医薬品ガイド（ランドセン）.pdf
- ③医薬品インタビューフォーム_ランドセン.pdf

3. 「子宮頸がんワクチン」接種めぐり議論 山本太郎氏演説で注目、関係各所の見解は <https://www.j-cast.com/2019/10/21370637.html?p=all>

以下引用

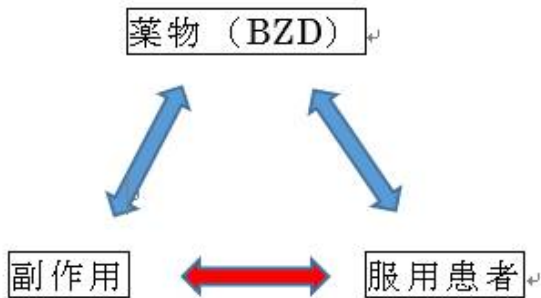
『子宮頸がんワクチンについて、れいわ新選組代表の山本太郎氏（44）が、「有効性が低くて必要がない」との情報を街頭演説で伝えたが、ネット上で関係者らから異論も出ている。』

『そして、ワクチンによるがんの予防効果は証明されていないとする厚労省の資料を示し、「人体実験してんじゃね～よ、というお話ですね」と声を荒げた。2013年に2か月ほど定期接種を国が積極的勧奨していた過去について、効果不明なのに接種を勧めたとして、「あまりにも無責任なんじゃないかな」とも指摘した。』

HPVは全国で集団訴訟を提訴しており、その被害の実情は各方面に浸透している。したがって、政治の世界でも上記のような意見が出てくる。

我々、BZDも集団訴訟すれば、多くの国民及び医療関係者の注目の対象となる。特に、ベンゾジアゼピンの場合、その薬物自体に「依存性」があり、多様な副作用が存在することはすでに証明されている。残っているのは、患者の症状が「原疾患」かそれとも「ベンゾジアゼピン副作用」かという点しかない。

したがって、下図のトライアングルで  の関係が途絶えているだけである。



4. 医薬品・医療機器等安全性情報 (No.367)

<https://www.pmda.go.jp/files/000231955.pdf>

「2. 医薬品副作用被害救済制度の概要と制度への協力をお願いについて」において 医薬品副作用被害救済制度について、一般の方々に対する平成30年度調査における認知率が低いことから、本制度の周知のため、その概要について掲載されています。

5. 民事訴訟で使う書式 (松江オリジナル)

http://www.courts.go.jp/matsue/saiban/tetuzuki/l4/Vcms4_00000309.html

本人訴訟 (代理人弁護士を使わずに原告本人が提訴する場合) をされる方が参考になる裁判所提出書類の書式集です。



全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会 多田雅史

協議会の連絡先

愛知県及び東京都に連絡先を置く

愛知県 (暫定仮)

柴田・羽賀法律事務所

〒461-0001 名古屋市東区泉1-1-35

ハイエスト久屋5F Tel : 052-953-6011

